



学校を支えるサポーター

先週は全校でのもちつき。1年生から6年生まで全員が杵でもちをついたり、丸くこねたりなど貴重な体験をすることができました。ホームページで紹介しているように、子どもたちの楽しそうな笑顔が印象的でした。このような貴重な体験ができたのは、多くの方々のサポートがあったからです。

この行事には、子どもたちが育て収穫したもち米が使われています。まず、PTAの米づくり委員会の方で「親子米づくり体験」を企画し、参加を募っていただきました。そして、JA嘉島さんの協力を得て田植え、稲刈り。ここで収穫したもち米が今回使用されています。不足分についてはJA嘉島さんからの寄贈で補うことができました。さらに、当日のつき手としてJA嘉島さんから6人もの方が参加してくださいました。

昨年度は、つき手が少なく、私も老体に鞭打って杵を振り続けました。その後、2、3日は……。そこで、城東の防犯モデル地区会議に出席した折、本校のもちつきを紹介し、つき手を募集しました。すると、数名の方が駆けつけていただき、協力してくださいました。

また、前日の準備から当日の運営、後片付けまで、執行部・総務委員を中心にPTAの皆さんには本当にお世話になりました。

このように多くの方が支えの中で、城東小の伝統行事が継続され、子どもたちは貴重な体験ができています。JA嘉島の皆さんも、地域やPTAの皆さんも、それぞれの立場から学校を支えてくださるサポーターです。

子どもたちが日々学び、生活する学校です。よりよい学校をめざし、一步一步高まっていきたいと考えます。しかし、それは私たち教師の力だけでできるものではありません。子ども、教師、保護者、地域の方々などみんなの力で創り上げていくものだと考えます。全国の中には、「保護者」ではなく「サポーター」という名称を使う学校もあるそうです。我が子のことだけでなく、子どもたち全員がよりよく成長できるように、自分に何ができるのか、それぞれの立場から考え、できることを実践していこうという趣旨だそうです。前述のもちつきも、正にこのような思いで協力いただいているのではないかと思います。それ以外にも、登校する子どもたちを見守ってくださっている方々がいらっしゃいます。登校班と一緒に歩いてくださる方もいらっしゃいます。登校を終えた後、遅れてきた子どもに気づき、声をかけながら一緒に学校まで歩いてくださった方もおられます。

「みんなで創る学校」をめざし、自分にできることを、それぞれの立場から実践していく。そんな輪が広がっていけば本当に素敵ですね。